

第3回世界水フォーラム・閣僚級国際会議開催の意義

水の重要性、多面性

- ・有限な水資源（地球全水量 2.5% の淡水の一部のみ）
- ・世界の 5 人に 1 人（約 12 億人）が安全な飲料水なし
- ・世界の 5 人に 2 人（約 24 億人）が下水等の衛生施設なし
- ・毎日約 6 千人（年間約 200 万人）の子供が水関連の病気で死亡
- ・世界人口の増加 大幅な食料供給が必要 水利用の効率化の必要性
- ・世界の森林の減少・劣化 洪水等災害被害の増加



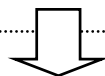
- ・水問題は多方面から要検討：
水供給と衛生、農業(灌漑)、環境、防災、IT 等
- ・異なる地域で異なる問題があり、異なった対応が必要：
乾燥・半乾燥地帯 モンスーン等多雨地帯
- ・都市部と農村部においてはニーズが異なる

水問題は世界的課題

地球環境サミット（1992 年、於リオ）水は重要課題
第 1 回世界水フォーラム（1997 年、於マラケシュ）
第 2 回世界水フォーラム・閣僚会議（2000 年、於ハーグ）「水を全ての人の課題に」
ミレニアム開発目標（2000 年 9 月）
持続可能な開発に関する世界首脳会議(WSSD)(2002 年 8 月)

安全な飲料水、基本的な衛生施設を得ていない人々の割合を 2015 年までに半減する目標を設定

2003 年は国際淡水年



日本は世界の水問題解決を主導

日本のODA

- ・水分野へ過去 3 年間で約 6 5 0 0 億円の資金協力
 - ・飲料水と衛生分野への援助（過去 3 年平均約 1 0 億ドル）は、
 - 世界の同分野への ODA 総額において 1/3 のシェア
 - 我が国 ODA 総額において 6%（DAC 平均 3.7%）のシェア
- WSSD の際、日米「きれいな水を人々へ」イニシアティブを発表
- 日本は河川管理、水質管理、多面的機能の発揮、水の循環利用技術、上下水道整備、森林の整備保全等で豊富な経験。海水淡水化、砂漠緑化等先端技術開発。技術面での貢献の可能性

第3回世界水フォーラム（3月16-23日、京都・滋賀・大阪）・閣僚会議（3月22-23日、京都）



G8 エビアン・サミット（6 月）（議長国仏は水、アフリカ問題に強い関心）
アフリカ開発会議（TICAD III、9～10 月於東京、アフリカの開発には「水」が鍵）